

授業科目名	刑事訴訟法 I	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブタイトル	刑事手続の法的規律	担当者	百合草 浩治			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>いわゆる「捜査法」の基本原則とその法的規律、および関連する重要判例について講義をする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>捜査法の基本的な事項について理解し、重要判例の趣旨とその理論上の問題点を把握できるようになること。</p>					
履修条件	特になし。ただし、1回目の講義には 必ず 出席すること。					
教科書・参考書	<p>【教科書】指定しない。</p> <p>【参考書】三井誠＝酒巻匡『入門刑事手続法〔第5版〕』（2010年、有斐閣）</p> <p>三井誠（編）『判例教材 刑事訴訟法〔第3版〕』（2008年、東京大学出版会）</p> <p>井上正仁ほか（著）『ケースブック刑事訴訟法〔第3版〕』（2009年、有斐閣）</p> <p>三井誠『刑事手続法（1）〔新版〕』（1997年、有斐閣）</p>					
授業回数	内容					
1	イントロダクション、刑事手続（法）を学ぶ意義					
2	刑事手続の全体像					
3	刑事手続（法）の基本原則・刑事手続の担い手					
4	捜査（1）総説					
5	捜査（2）捜査の端緒					
6	捜査（3）重要判例①：任意捜査と強制捜査の区別、職務質問、所持品検査、自動車検問					
7	捜査（4）逮捕・勾留					
8	捜査（5）物的証拠の収集・保全〔搜索・差押・検証等〕					
9	捜査（6）被疑者等の取調べ・被疑者の防禦					
10	捜査（7）重要判例②任意取調べ、別件逮捕・勾留と余罪の取調べ					
11	捜査（8）重要判例③写真撮影、ビデオ撮影					
12	捜査（9）重要判例④おとり捜査、黙秘権、ポリグラフ検査					
13	捜査（10）重要判例⑤強制採尿、盗聴と電話検証（通信傍受法）					
14	捜査（11）重要判例⑥接見交通権					
15	まとめ					
評価方法	平常点（出席点・小テスト等の合計）					
評価基準	<p>原則として、80パーセント以上の回に出席していることを単位認定の前提とする。</p> <p>上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。</p>					
その他	<p>教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。なお、持参しない者は、「出席」とは見做さない。</p> <p>授業は、講義と質疑応答を組合せた形で行う。</p> <p>【受講上の注意】</p> <p>遅刻は原則として認めない。私語・携帯電話の使用は禁止する。</p> <p>正当な理由のない、途中退室後の再入室は認めない。</p> <p>その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。</p>					